

# 第37回 栃木県営都市公園写真コンクール 審査会 【講評】

	賞	受賞者名	タイトル	撮影公園	審査員長コメント
選    評	最優秀賞	下田 幸一	絶景眺め、ウォーキング	日光だいや川公園	春という季節感とそこに訪れる人々を写した作品。人物との対比で木の大きさなどのスケール感がわかりやすい。空の青と桜のピンクのコントラストが美しく、その間に男体山が抜けて見えている非常に良い構図。写真は光と影の対比が重要であり、本作品は木の上の光や男体山の光で色が出やすい時間を狙って撮影したという印象。
	優秀賞	安納 祐一	木洩れ日のなか	栃木県中央公園	魚眼レンズの歪みを効果的に使い、普段見ることができない世界観を演出した作品。写真は、カメラだからこそ撮れるという撮り方をした方が面白みが出てくる。ベンチに座っている二人はウォーキングなどで公園に来て談笑しているのだろう。普通に通る過ぎたらただの日常で済んでしまうものも、魚眼レンズを使って、手前の藤の花をダイナミックに活かしながら奥の二人を写すことで作品性が増している。光と影の陰影が美しい。魚眼レンズの効果と相まって面白い一枚。
	優秀賞	添田 美鈴	ママ見て！かわいいお花があるよ！	栃木県中央公園	公園には人それぞれの過ごし方がある。親子で楽しんでいる二人の自然な表情・笑顔が良い。新緑のすごく綺麗な時期で、初夏の空気感が伝わってくる。お母さんのお腹が大きいので、来年には被写体がもう一人増えて三人で写るのかなというストーリーまで見えてくる。身近で楽しめる、安心して楽しめる場所という雰囲気伝わってくる。
	優秀賞	安納 功	春風にさそわれて	那須野が原公園	「春風にさそわれて」というタイトルが良い。春風の雰囲気を感じる。雲の流れやチューリップが風に揺らいているような情景が浮かぶ。花と同じ目線から外の世界、公園を見ているという視点が面白いと思った一枚。
応募作品 総 評					以前に比べ人が公園に出ている写真が増えてきた。コロナ禍のころは親子だけとか、一人だけ写っている写真が見受けられたが、今回の応募作品では行事で公園を訪れている、人が団体で動いているものが多くなり、時代背景として見えた。今回は主役がそれぞれの公園で四季折々の美しいものだったり人であったり、「ここを撮るんだ」というような被写体の面白みが増してきた印象がある。今回の応募作品数は少なかったが、作品の中身は充実している。

審査員長	サトーカメラ株式会社 写真講師	佐藤 秀明
審査員	栃木県公園事務所 所長	吉成 克弘
審査員	公益財団法人栃木県民公園福祉協会 専務理事	内田 光昭